

# 外国語としての日本語

第5回 国際言語管理研究会

2012年6月30日

荒川 洋平

(東京外国語大学)

yohey@tufs.ac.jp

# 本発表の目的

目的

1

外国語としての日本語の  
知見を研究会でシェア

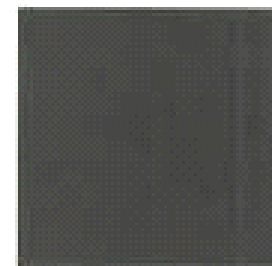
目標

2

国際言語管理の観点から  
現代日本語の課題を探る

日本語という外国語

荒川洋平



講談社現代新書

2013

# 序論-1 接触場面(CS)の3種類

CS

1

母語話者どうしの接触

→敬語の乱れ カタカナ語の増加

CS

2

非母語話者が入る接触 (尾崎1998)

2a 母語話者 — 非母語話者

2b 非母語話者 — 非母語話者

- ・今までは日本語はCS1の発想のみで語られた  
(日本—日本語—日本人) (荒川2010)

# 序論-2 国際コミュニケーション の言語選択

選択

1

## 国際語としての英語 (EIL)

→国際言語管理の基本

選択

2

## 国際語としての日本語 (JIL) (本名2011)

→日本人の知識・スキルは未熟

- ・円滑なコミュニケーション
- ・そこで得る個人的/社会的利益のシェア

→アソシエイトレベルでも必要

# 概論-1 日本語の輪郭

1.1 話者数:世界第9位の「大言語」

1.2 学習者数:全世界でほぼ500万人、200か国

1.3 表記:三種併用は日本語のみ

例) この位の進め方で行きます。

1.4 発音:5母音+開音で発音は比較的易しい

1.5 文法カテゴリー:性・数・活用が単純

1.6 語彙:日常使う単語数はかなり多い。

例) おおきさ・・・規模・・・スケール

# 概論-2 日本語の「使いにくさ」

2.1 「私・今・ここ」の背景化 (近藤・姫野2012)

2.2 過度なまでの「恩恵関係明示」

2.3 ケーススタディ

= 渋谷駅で携帯を持つ日米ビジネスマンのことば

# 概論-3 国際言語管理と日本語

～プロフェッショナルに求められる能力とは～

## 3.1 的確な運用力

**ordinator/trainer**双方 (Huhta 2002)

## 3.2 コミュニケーションの仲介者

3.2.1 予防(**prevention**)の言語管理

3.2.2 治療 (**remedy**)の言語管理

## 3.3 KW:パーソナルな「平和構築」

# 参考文献

荒川洋平（2009）『日本語という外国語』 講談社

荒川洋平（2011）『とりあえず日本語で ～もしも…あなたが外国人と「日本語で話す」としたら～』 スリーエーネットワーク

尾崎明人（1998）「異文化コミュニケーションの接触場面と日本語教育」  
『日本語教育通信 32号』 国際交流基金日本語国際センターpp. 12-13.

近藤明月子・姫野伴子（編著）（2012）『日本語文法の論点43』 研究社

本名信行（2011）『言語管理は究極の危機管理』 第1回国際言語研究会 研究発表

Huhta, M. (2002) *Tools for Planning Language Training*. Councils of Europe.